

2023年度 施設内評価

人権擁護のためのセルフチェックリスト使用 / 「していない」のチェック数を%表示

	%
1 子ども一人ひとりの人格を尊重しない関わり	95.8
2 物事を強要するような関わり・脅迫的な言葉かけ	98.3
3 罰を与える・乱暴な関わり	96.7
4 1人1人のこどもの育ちや家庭環境を考慮しない関わり	97.9
5 差別的な関わり	98.3

ふり返り

- ・ 初心に返り、自分の保育を見直すことができました。
- ・ 子どもの気持ちに寄り添った関わりをもっとしていきたいと思った
- ・ 自分なりに日々の保育の反省や考察を行っていたが、事例に沿って考える良い機会となった
- ・ 保育者として子どもを尊重することの大切さ
- ・ 保育はしつけではない
- ・ おおむね良い関わりができていたと思った

1)「子ども一人ひとりの人格を尊重しない関わり」について

◆自らの良い点

- ・ 子どもにとって何が最善なのかよく考えて生活を送る
- ・ 言葉遣いには特に気を付けています
- ・ 子ども達が保護者の方と離れても安心して過ごせるように接している
- ・ 未満児さんとの関わりが中心なためか、気になることはなかった
- ・ その子をまるごと認めて受け止める
- ・ どんなときも子ども達の良いところはないかなと探し、声を掛けようとしている
- ・ 1人1人の気持ちに寄り添い、状況や成長に応じた声掛け、対応を心掛けている
- ・ どんな時も子どもの気持ちを汲み取り、否定的な言葉がけをしない
- ・ 子どもの人格を尊重できている

◆自らの改善すべき点や目標

- ・ 子どもが気持ちよく過ごせるように日々考え、工夫し保育を行う（反省・記録をする）
- ・ 食事をわざとこぼしたりした子に、大きい声を出したことがありました。
- ・ 排泄面で失敗した時、清掃や着替えのために周囲に知らせるが、責めたりはしていない
- ・ 話を聞こうと心掛けているが、他児への対応中に話しかけがあった際、「後で」となる場合がある
- ・ 褒める教育に囚われすぎず、子どもが間違った行動をしたときは理解できるよう伝えていく
- ・ もっと1人1人に寄り添った関わりをする
- ・ ひとつひとつの言葉掛けに日々反省・工夫しているが、今後も気持ちの良い声掛けを行っていきたい
- ・ 大人の価値観の押し付けにならないような言葉掛けを心掛ける
- ・ 給食が楽しい時間となるような環境を作る。成長過程を見守り意欲的に食べ進めていける配慮する。
- ・ 子どもの意欲に沿った、自己肯定感を育む言葉がけをしていきたい
- ・ 人として対等の立場として子どもに向き合っていく

2) 「物事を強要するような関わり・脅迫的な言葉がけ」について

◆自らの良い点

- ・ 素敵な心地よい言葉のシャワー
- ・ 否定はしないようにしています
- ・ 一緒に行い、感じ、共に過ごす
- ・ 子どもの意見や気持ちを聞くように声掛けている
- ・ 自ら考え行動に移せるよう、声掛けや環境作り、雰囲気作りを心掛けている
- ・ 子どもに強要したり、恐怖心を与えないよう気を付けている
- ・ 子どもの気持ちを第一に考えて声掛けできている

◆自らの改善すべき点や目標

- ・ プラスな言葉をたくさん与える
- ・ 「〇〇できたら、次は〇〇ね」という言い方をしてしまっていた。言い方に気を付けようと思います。
- ・ 言葉にはしていないのですが、たまに表情には出しているかもと思い注意する。
- ・ 禁止や注意は必要なこともあり、なぜ必要か子どもが気付ける言葉掛けを工夫する。
- ・ 気持ちに余裕のないとき忙しい時等、ゆったりとした気持ちで関わっていないときがあると反省
- ・ もっと時間と心に余裕を持った保育を行っていきたい
- ・ 子ども達が自分で考え行動できるよう言葉かけを考えていきたい
- ・ 大きな声を出すことなく、落ち着いた話し方、声掛けをする。
- ・ 子どもが進んで行動できるよう肯定的な言葉掛けをする
- ・ 仕事を優先せず、子どもの気持ちや状況に配慮した関わりをしていきたい
- ・ これからも子どもの気持ちを考え関わっていく

3) 「罰を与える・乱暴な関わり」について

◆自らの良い点

- ・ 子どもの存在を大事にする
- ・ 常に優しく見守る
- ・ 1人の人間として丁寧に接する
- ・ 罰を与えることは子ども達に関わる上で良くないと思っているので引き続きしないようにしていく
- ・ 暴力的な行動を行うことはない
- ・ 子どもによって感じ方は変わるので、一人一人に応じた声掛けを意識している
- ・ 子どもを叩いたり罰を与えることは絶対にしない
- ・ 丁寧に接している

◆自らの改善すべき点や目標

- ・ 体罰や言葉の暴力がないよう、一人ひとりを尊重する
- ・ 散歩の前のトイレのときなど、次の行動への見通しができるようにする
- ・ なぜしてはいけないのか等、理由を説明し、子ども達に納得してもらえる声掛けをしていく
- ・ 迷惑をかけること、暴力的なこうどうは何故いけないのか、具体的に分かりやすく伝えるようにする
- ・ 子どもが納得して自分から動き出せる工夫をしていきたい
- ・ 安心して過ごせるよう信頼関係を築いていく。
- ・ 子どもに触れるときは優しく、また、言葉を添える
- ・ 見通しを持って行動できるよう、身体的で分かりやすい言葉がけをしていきたい
- ・ 丁寧に対応するように心掛ける

4) 「一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しない関わり」について

◆自らの良い点

- ・ 家庭環境や育ちを考慮し、またそのせいにしない
- ・ 育ちや家庭環境を考慮しない関わり方は全くしていません
- ・ 家庭環境を踏まえて、一人ひとりに寄り添っている
- ・ 子どもや保護者、それぞれの過去や現状を踏まえ、気持ちに寄り添うことを心掛けている
- ・ 家庭環境は様々であり、考え方などの違いに配慮している
- ・ 1人1人の育ち、環境を考慮している

◆自らの改善すべき点や目標

- ・ 互いに尊重し合える雰囲気を作り出すことに努める
- ・ さらに配慮していこうと思います
- ・ お迎えが遅い場合「いつもより遅いね」など言うことがあるので、気を付けたい
- ・ 家庭や地域で様々な連携を図りながら保護者支援を行っていききたい
- ・ 「遅いね」と声掛けすることがあったかもと反省。気持ちを考え一緒に楽しく待てるようにしたい。
- ・ 子どもも保護者もそれぞれ素敵なところを認めたり褒めたりしながら全員で育ちあう環境を作っていきたい
- ・ 保護者への支援や言葉掛けを工夫していきたい
- ・ 保護者への支援に努める。
- ・ 1人1人の置かれた状況を踏まえ、保護者の気持ちに寄り添った関わりをしていく
- ・ 1人1人の家庭環境が違うので、経済や環境の状況にあった問いかけをしていこうと思う
- ・ これからも変わることなく関わっていく

5) 「差別的な関わり」について

◆自らの良い点

- ・ すべての子どもが平等であるように関わっている
- ・ 差別的な関りはまったくしていません
- ・ 女の子、男の子と決め付けず、平等に接している
- ・ 人と比べるのではなく、その子自身の成長を見ながら声掛けや対応するようにしている
- ・ どの子にも平等に、1日を通して関わりを持たない子がいないよう、控えめな子には積極的に関わっている
- ・ 差別のない関わりができています

◆自らの改善すべき点や目標

- ・ 自らが自己の価値観や言動を観察していく
- ・ やむを得ない場合もありますが、配慮が必要な子にばかり付くことがあるので平等を意識します
- ・ 1人1人の子どもが、自分を肯定する気持ちが育まれるような関わりをしていく。
- ・ 1人1人を尊重し、平等な関わりを今後も続けていきたい
- ・ 差別はしていないが、それぞれが不快に感じることなく気持ちよく生活できるようにしていきたい
- ・ 子ども達の個人差に留意しながら差別感を味わうことのないよう接したい
- ・ 男の子、女の子と区別するようなことはしない。一人一人を尊重し平等に関わる
- ・ 平等に配慮することが大切
- ・ これからも差別することなく関わっていく